

one  
オール市民でまちを創る  
team  
ワンチーム  
おおいた  
OITA

世代も性別も職種もこえて  
みんなのチカラをひとつに。  
理想のまちがこれからはじまる。

足立信也  
政策集

2023.03.11

# ひとが真ん中。

## ひとを守る

自然災害や感染症などのリスクをあらゆる角度から想定。医療と介護・福祉、そして災害対策等を充実させ、新たな脅威にも迅速に対応して被害を最小限に抑えること、命を守ることに尽力します。

## ひとを育む

少子化・人口減をくい止め、安心して子育てができるまち、ずっと住み続けたいまち、弱者にやさしいまちを目指します。

## ひとを支える

お互いが支え合って暮らすまち、人材育成によるマンパワー強化で相談機能を高め、市民生活を支えます。職員一丸となってスムーズに流れるまちづくりを運営します。

## ひとを豊かに

豊かさを追求するための経済政策で新たなポテンシャルを掘り起こし、生きがい・やりがい・働きがいをもって住み続けられる持続可能な都市環境をめざします。

## ひとを元気に

子どもたちが安心して学び、大人がいきいきと輝く。明るい未来が描ける魅力的なまちは、そこに住む人々の心と体が元気だからこそ。one team OITAでひとを元気に！まちを元気に！

# 少子化対策を 最優先

## 大分市版事業仕分けの実施(スクラップ&ビルド)

限られた行政の人的・財政的な資源のなかで、人にやさしい事業に必要な資源を確保するため、これまでの事業を仕分けするスクラップ&ビルドを行います。また部署を横断して政策を進める部門を創設します。

## 0～2歳児の無償化をめざし、 まずは第2子以降の保育料を完全無料化

0～2歳児の無償化をめざして、まずは第2子以降で、保育の必要性が認められ認可外施設を利用している場合を含め、保育料を無料化し、もう一人子どもが欲しい世帯の経済的負担を軽減します。

※年間、約1億4,000万円の見込。

## 中学生の学校給食費の無料化

公立中学校の学校給食費を無料化し、補助学習費や習い事などの教育費が膨らむ家庭の負担を軽減します。

※年間、約6億2,000万円の見込。

## 子ども医療費助成事業を高校生まで拡充

現在、中学生までを対象として、入院費無料および通院1回につき500円の自己負担の医療費助成が行われています。通院医療費助成を高校生までに拡充します。

※年間、約1億9,000万の見込(一医療機関1回につき500円、計4回までの自己負担有)。

## 給付型奨学金制度の大幅拡充

経済的な理由で進学を諦めない、頑張れば報われる社会の実現に向け、大学、専修学校などの高等教育進学者への給付型奨学金を拡充します。卒業後、大分県へ就職することを条件に、一人当たり計500万円(1年次は200万円、2～4年次は各100万円)を支給します。

※年間25名の場合、予算は初年度5,000万円、

2年度は7500万円、3年度は1億円、4年度以降は1億2,500万円の見込。

# ひとを守る

## まちづくり

### — 安心・安全な医療・防災の先進都市をめざして —

新型コロナウイルスの感染拡大は、「柔軟性に欠ける縦割り」や「デジタル化の遅れ」という、日本の医療構造の課題を浮き彫りにしました。22年間の医師としての経験、厚生労働大臣政務官として新型インフルエンザ対策で指揮を執った経験をもとに、今後あらゆるリスクに対応できる安心・安全な医療体制づくりを関係機関とも連携して進め、災害対策に尽力します。

### 新型コロナウイルス感染症対策

今年5月から新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが、季節性インフルエンザと同じ「5類」へと移行しますが、高齢者・妊婦にとって高いリスクがあることは変わっていません。医療施設や高齢者施設での検査の継続、発熱患者の受入態勢の継続など、次のステージに向かう前向きな対策、新たな感染症に備えた体制の確立に努めます。

- 新型コロナウイルスからハイリスク者を守る施策を継続
- 医療機関、介護施設、福祉施設への支援の維持

### 安心・安全な医療を

病院間の連携強化、情報ネットワークによる効率化、先進医療の導入、医療人材の確保などに取り組み、生涯を通して健康でいられる医療先進都市をめざします。

- 画像診断AI導入・普及
- 手術支援ロボット「HINOTORI」導入支援
- 地域医療情報ネットワークを広域展開し、医療・介護情報ネットワークへ発展
- 「(仮)地方独立行政法人公的病院機構」の検討
- 東九州メディカルバレー構想の発展
- 子宮頸がん・骨粗しょう症等、早期発見が有効な疾患の検診に取り組む
- 夜間救急拠点の整備等、効率的な救急医療体制の確立に取り組む

### 暮らしと命を守る防災行政

自然災害がもたらす被害を最小限に抑え、すみやかに被災地への支援が行える体制を構築します。また「共助」「自助」それぞれのレベルでも災害への対応力を高められるよう、防災行政の「見える化」と防災意識の啓発で災害に強いまちづくりをめざします。

- 消防指令業務の共同運用を推進
- 水害監視に寄与するカメラを増設
- 災害時の広域行政に備え、管路等台帳システムの利用を拡充
- 災害時に向け、使える井戸マップの作製

# ひとを育む

## まちづくり

### — 妊娠・出産から子育ての先進都市をめざして —

ライフスタイルの変化等にともない、職場・仕事でのキャリアアップか、出産か、という選択を迫られることなく、誰もが安心できる出産・子育てを積極的に支援し、国の少子化対策の「前倒し実現」をめざします。

### 安心・安全な「保育」をめざします

妊娠から出産後まで切れ目のない支援を行い、「はたらく人」「生活者」の育児の負担を軽減して安全・安心でゆとりある保育をめざします。

- 第2子以降の保育料を完全無料化
- 利用しやすい病児保育制度に取り組む
- 「赤ちゃんお助け隊」を充実
- 使用済み紙オムツの保育施設での処分を進める
- 午睡見守りシステムの導入

### 多様性ある充実した 学びの場をめざします

保護者の負担を軽減し、児童・生徒の「学び」の環境を充実させます。

- 中学生の学校給食費の無料化
- 子ども医療費助成事業を拡充
- 勇気メッセンジャー「いじめゼロ」「虐待ゼロ」の取組を進める
- 子ども家庭支援センターと県中央児童相談所城崎分室との連携を強化
- アバター導入などインクルーシブ教育を推進
- ヘアロスの小中高校生を支援
- 児童へのGPS機能による見守り支援
- 9価子宮頸がんワクチンの推奨
- 中高生生理用品の配布を検討
- 給付型奨学金制度の大幅拡充

# ひとを支える

## まちづくり

—「支えあい」であらゆる人が輝く都市へ—

お互いが支え合い、あらゆる人の権利・生活が守られるまちを目指します。介護・福祉の向上を図るとともに、人材育成によるマンパワー強化で市民生活を支え、職員一丸となってスムーズに流れるまちづくりを運営します。

### あらゆる人が活躍できる社会をめざして

障がいの有無や年齢・性別などに関係なく、あらゆるひとが社会や地域で活躍できるまちをめざします。また福祉・介護の現場で「はたらく人」の環境も改善します。

- 女性や高齢者、障がい者等の就労を促進
- 地域包括ケアシステムの充実  
(介護から医療・介護ケアシステムへ)
- 介護ロボットの活用推進
- 誰もが安心して外出できる共生のまちづくり
- 車椅子で利用できる店舗拡充を促進
- パートナーシップ条例の制定をめざす

### 時代にあった行政の機構改革

既存事業を仕分けして新規事業に必要な資源を確保し、部署を横断して政策を進める部門を創設します。また、DX(デジタルトランスフォーメーション)を担う人材の確保と育成を進めます。

- 事業仕分け(スクラップ&ビルド)を実施
- 総合戦略を担う司令塔部署を設置
- 行政のデジタル化を推進
- 大分都市広域圏事業の庁内体制を強化
- 「市長の通信簿」(半年中間検証・年間検証)を導入



# ひとを豊かに いつまでも住み続けられる まちづくり

## — 機能的で持続可能な都市へ —

地域経済の振興と両立する「持続可能な都市(サステイナブル・シティ)」をめざします。  
また、急速な少子高齢化による様々な課題に対応した「生活者」の視点から都市機能の  
最適・効率化を図ります。

### 地域経済の振興

地域産業や地元企業を取り巻く種々の問題を解決。若年起業家の支援等を充実させるほか、大分空港の宇宙関連事業の需要増化を取り込み、新時代の農業政策も進めます。

- 競争入札に地域産業育成方式を導入
- 宇宙港関連ビジネス研究拠点の誘致を図る
- 「(仮)生命と宇宙の科学館」の設置を検討
- UJターン起業家事業および若年起業家支援の充実
- ロボット等・先端技術の取組の推進
- ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する「スマート農業」をめざす
- 付加価値農業の強化

### 持続可能なまちづくり

企業・団体・個人事業者等と連携してSDGs(持続可能な開発目標)の普及啓発やSDGsの達成に向けた取り組みを推進します。また「新環境センター」整備計画に合わせ、余熱利用施設から得られる発電電力の有効利用など、再生可能エネルギー利用の促進とともに水素などのクリーンエネルギーの活用を図ります。

- 「SDGs未来都市おおいた」を推進
- クリーンエネルギーの推進
- 「脱炭素先行地域」の指定をめざす
- バイオマス技術を活用した農業の研究
- 水素エネルギーの活用を推進

### 都市機能の最適・効率化

これから大分市でも深刻化すると見込まれる地域の担い手の高齢化問題。心地よく住める大分市を目指し、住まいと交通・商業施設などの生活機能が近接する効率的な都市計画を中長期的な視点で策定します。

- 中九州横断道路の整備を推進
- 市営住宅設備のリノベーションを推進
- 公共交通のイノベーション
- デジタル田園都市の認定都市を推進
- 新たな駅の設置を検討
- インフラ事故の未然防止の強化

# ひとを元気に

## 新たな魅力が生まれる まちづくり

— 世界に開かれた芸術・文化・スポーツ都市へ —

西洋文化が華開いた「おおいた」の多彩で貴重な歴史を継承しながら、文化・芸術・スポーツが融合した、新たな「おおいた」の魅力を創造・発信していきます。

### 伝統と文化・芸術の調和

国内外からの旅行客の関心は、観光名所をめぐるだけでなく、好みに合った旅先での文化体験・交流を目的としたものに移行しています。「おおいた」の多彩で貴重な歴史・伝統をもとに新たな魅力を創造して国内外へ発信します。

- グルメで観光を推進
- 大分伝承事業の創設を
- 光の街プロジェクトを推進
- まちなか劇場の推進
- 芸術文化の祭典
- Oita Birth(大分市ブランド認証)の充実
- アンテナショップを通じて「おおいた」の魅力を発信し、企業誘致等を図る

### スポーツ資源と環境の整備

既存の運動施設をはじめとする地域の資源を有効活用し、障がいの有無に関係なく、スポーツを楽しめる社会をめざします。地域のスポーツの力を観光資源とする「スポーツツーリズム」の取り組みも行います。

- 日本代表級アスリートの合宿・キャンプを誘致
- 大分市営陸上競技場の整備を推進
- Park PFI事業による「アーバンスポーツ」施設の整備
- 公園や校庭の芝生化を図る



#### 足立信也プロフィール

役職 ●足立信也と安心な日本を創る会 代表 ●筑波大学 客員教授  
●一般社団法人 新時代戦略研究所 研究顧問  
生年月日 昭和32(1957)年6月5日生  
現住所 大分県大分市上戸次  
職業 医師  
出身地 大分県大分市  
著者 臨床医学のMinimum Essential(分担)ほか論文約80編

#### 学歴

昭和45(1970)年3月 大分市立上戸次小学校 卒業  
昭和48(1973)年3月 大分市立戸次中学校 卒業  
昭和51(1976)年3月 大分県立大分舞鶴高等学校 卒業  
昭和57(1982)年3月 筑波大学医学専門学群 卒業  
平成2(1990)年1月 医学博士(筑波大学)

#### 政治活動歴

- 平成16(2004)年4月～  
足立信也と安心な日本を創る会
- 平成16(2004)年7月  
第20回参議院議員選挙(大分県選挙区)で初当選、以降3期連続当選
- 平成21(2009)年9月～平成22(2010)年9月  
厚生労働大臣政務官
- 平成23(2011)年9月  
参議院政治倫理の確立及び選挙制度に関する特別委員長
- 平成29(2017)年11月  
民進党政務調査会長

- 平成30(2018)年5月  
国民民主党政務調査会長
- 令和2(2020)年9月  
国民民主党組織・団体委員長・国民民主党参議院幹事長
- 令和4(2022)年7月  
第26回参議院議員選挙で惜敗
- 令和4(2022)年8月  
国民民主党大分県連代表を辞任し、無所属へ



〒870-0955  
大分市下郡南4丁目2-13利光ビル2階

TEL 097-504-8484

FAX 097-504-8488

MAIL info@adachishinya.com

討議資料